

今日の説教のポイント<創世記 24 章 1~67 節>

素直な気持ちで学びたい、登場する人々の信仰心やその姿です。

①アブラハムから — 神様の約束を信じ抜く真剣さ

老人になったアブラハムは主の祝福に満たされていたとあります (1, 35)。羨ましいなと思うかもしれませんが、これまで彼が歩んで来た道を思うと、それは主の呼びかけに応じて出かけ、色々な困難に出会い、それを通して主への信頼を深めてきた道でした。羨ましいと思う人は、この点、自分はどうかと問う必要があるでしょう。そして今日の箇所で、極めつけの、主の約束にかたくなまでにこだわる彼の姿に出会うのです (6~8)。ここまで信頼されると神様もそれに応えないわけにはいかないだろうな、そんなことさえ思われます。

②アブラハムの僕から — 祈りに始まり、祈りに終わる姿

このアブラハムの姿が遣わされた僕にも影響したかもしれません。彼もまた主への祈りから始まって祈りで終わる人でした (12, 26)。この話からは、「祝福の連鎖」のようなものを思われます。アブラハムの主への信頼、その信頼を見て「新たな恵みを主人にお与え下さい」と神様に祈る僕、そしてその祈りが聞き入れられて行くのを見て僕自身も祝福の中に入れられて行くのです (48)。そしてさらに、ラバンもベトエルもその話を聞いて心動かされ、主に委ねるのです (50~51)。リベカもまた同じであったでしょう (58)。

③リベカから — 優しさと決断力

リベカの持つ優しさに心打たれます (18~20)。同時に、このリベカを神様が選ばれたのだな、それは当然だな、と思わされるのは私だけではないでしょう。いつどんな時にも、どういう姿であるべきか、私たちも素直に学びたい箇所です。

④神は登場せず、しかし神を覚えさせられる箇所。大事なことは？

この箇所では神様が直接登場されることはありません。しかし、神様を固く信頼して祈り行動する人々を通して、神様の存在を深く覚えさせられる箇所です。それでいいのです！ 神様はこの聖書を通して、私たちが見えなかったものを見えるようにしようとして下さったからです。「見ないで信じる人は幸いである」(ヨハネによる福音書 20 章 29 節)